

徳山高専平成27年度 年度計画	徳山高専平成27年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照	担当部署
独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という)の中期目標を達成するための計画(中期計画)に基づき、平成27年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。				
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置				
1 教育に関する事項				
(1) 入学者の確保				
① 入学志願者の学力水準の維持及び志願者確保のため、中学校などを中心に、広く社会に向けてPR活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○機構本部が纏めた「入学者の学力把握状況調査」、「入学志願者確保対策取組調査」を参考にして、入学志願者確保のための取組を企画、実施する。 ○中学校別志願者・合格者・入学者数推移を分析し、現状を教員に周知する。 ○年間のPR計画を立案し実行する。 ○山陰や県西部地域の中学校訪問を実施する。 ○宇部高専、大島商船高専と合同で、下関市、山口市、岩国市で学校説明会を実施する。 ○一般市民に向けた広報活動として下関市、下松市、広島市において、山口県内3高専合同説明会(高専ひろば)を開催する。 ○中学校への出前授業を実施する。 ○中学校へのキャリア教育支援を行う。 ○元中学校校長をアドミッションアドバイザーとして登用する。 ○中学校訪問地区の拡大を図る。 ○機構本部が作成した広報用パンフレットを、学校説明会、オープンキャンパス、3高専合同学校説明会等で配布する。 ○平成26年度から開始した学校HPの改善を継続し、報道発表を積極的にに行い、地域における本校の知名度の向上に努める。 ○同窓会と連携した広報活動を行う。 ○平成26年度に設置した広報活動WGを中心として、広報活動を集約し、これからの広報活動戦略を検討する。また「学校要覧」等の広報物の内容を改善・改良を継続して実施する。 			教務主事
② 女子学生志願者の確保のため、「徳山高専女子百科Jr.」を作成し、この利活用を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度版「徳山高専女子百科Jr.」を、中学生等に配布する。 ○平成28年度版「徳山高専女子百科Jr.」を作成する。 ○広報活動で女子学生を積極的に活用し、女子学生の活躍をアピールする。 	○中期ビジョン⑩における「男女共同参画の環境整備」や「入学者女性比率30%達成を目指す」に対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.1.社会で育む少子化対策プロジェクト」に対応している。	総合企画室長
③ 入学者の学力水準を維持するため、適切な入試実施への取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○本校のアドミッションポリシーに沿った学生を適確に選抜するよう推薦入試と学力入試を実施する。 ○中学校の教育内容を確認した上で、適切な推薦入試を行う。 ○平成27年度入試の反省を活かし、平成28年度入試の準備を周到に行う。 ○マークシート方式の入試をミスなく行う。 ○正確公正に入試業務を行う。 			教務主事
(2) 教育課程の編成等				
① 産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等を踏まえ、学科再編、専攻科の充実等を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ○第3期高度化改革検討WGで本校の改組再編(学科の新設、再編、コース制)を検討する。 ○地元周南市の市長と面談し要望を伺う。 ○周南コンビナート地域の企業を訪問し、本校に対する期待や要望を伺う。 ○顧問会議を招聘し、意見を伺う。 ○山口県産業戦略部と連携して周南コンビナートを支える人材育成について検討する。 ○高度化改革検討WG3で改組再編(7年制、ブロック化等)に関する検討を行う。 	○中期ビジョン⑧における「各高専・キャンパスの個性化(強み)の推進」に対応している。 ○中期ビジョン⑨における「高度なグローバル技術者を養成するための高専など、新しい高専モデルの構築」に対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.5.産業活力・富の創造プロジェクト」に対応している。 ○山口県産業戦略推進計画(平成25年7月策定、平成27年3月改定)における「ものづくり産業等を支える人材の育成:具体的な取り組み口高専・大学の機能強化・企業ニーズに応じた学科等の新設」に対応している。	教務主事 専攻科長
② 「数学」、「物理」に関しては「学習到達度試験」を実施する。TOEICやACEの一斉試験などを実施し、英語力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○学習到達度試験(「数学」、「物理」)を受験し、試験結果を分析する。 ○学習到達度試験の結果から、個々の学生の学習状況及び苦手分野を把握する。 ○学習到達度試験の結果を検証し、本校における学力の向上や教育のスキル向上に向けて強化すべき点、改善が必要な点を検討する。 ○TOEIC及びACEの一斉試験を実施し、結果を分析して学生の英語力の向上を目指す。 ○各種英語検定試験を学生に周知し、受験しやすいようにできる限り校内実施する。特にTOEIC IPテストは上限回数(年5回)実施して受験機会を増やす。また、受験者の受験相談に応じたり、学習用教材を貸し出したりして自発的学習を奨励促進する。 ○リーディング力の伸長に効果が期待でき、TOEICリーディングの点数向上にもつながる多読授業を、平成27年度も継続して実施する。 ○ACE及びTOEICで定めている到達目標(全体の6割以上が到達すべき基準点)について、近年の到達状況、社会情勢や他校の趨勢に照らして見直しを行う。 ○英語弁論大会やプレゼンテーションコンテストへの参加を募る。 ○学習到達度試験の状況を参考に、基幹的専門科目のカリキュラム内容の点検を行う。 ○TOEICの活用状況を参考に、専門英語授業内容の点検を推進する。 ○香港VTC学生などの留学生との英語を介したコミュニケーションにより、国際共通語の必要性を認識させる。 	○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」に対応している。		教務主事 一般科目主任 機械電気工学科主任

徳山高専平成27年度 年度計画	徳山高専平成27年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照	担当部署
	<ul style="list-style-type: none"> ○公表された学習到達度試験の状況を参考に、基幹的専門科目ごとの指導内容を点検する。 ○本科および専攻科の「英語講読」において、教材の精選などにより、英語力の向上に努める。 ○公表された学習到達度試験の結果を参考に、基幹的専門科目の指導方法の点検を行う。 ○TOEICの結果を参考に、卒業研究における英語講読の文献選択、英語での卒業論文執筆、英語での口頭発表のできる学生を増やしていく。 			情報電子工学科主任 土木建築工学科主任
③ 学生による授業アンケートを実施し、これを教員にフィードバックし、授業改善に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ○全学生による授業アンケートを実施し、教員の授業改善に活用する。 ○授業アンケートの改善について検討を開始する。 ○全教員が、前年度の授業アンケート結果を含む「年間職務の自己評価」を実施し、自己評価WGでその内容をレビューし、その結果を各教員に校長面談等によりフィードバックする。 ○「年間職務の自己評価」の結果の一部を、学校HPで公開する。 			教務主事 総合企画室長
④ 全国的な競技会やコンテストに積極的に参加し、学生の意欲向上や高専のイメージの向上に資する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ロボコン委員会、メカトロシステム部を中心に、全国高等専門学校ロボットコンテストに参加する。 ○ニューメディア部を中心に、全国高等専門学校プログラミングコンテストに参加する。 ○デザイン研究部を中心に、全国高等専門学校デザインコンテストに参加する。 ○英語に親しむ同好会を中心に、全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに参加する。 ○高専体育大会、高体連主催の大会、高野連主催の大会については、対応する部活動が中心となって各大会に参加する。 ○高野連の夏の甲子園予選会については、有志を募って応援団を結成し、大会参加学生の応援を積極的に行うとともに、学校を挙げて応援活動を行う。 ○全国高専体育大会に出場する選手の壮行会を実施する。 ○一年生に向けたクラブ紹介を実施する。 ○優秀な成績を収めた団体および個人を合同ホームルームで表彰する。 ○高専ロボコン・周南ロボコンへの積極参加により学生の興味を引き出すことにより勉学意欲向上に務め、ロボットの作りを通して地域のイベント等に協力することで高専と地域のつながりを深める。 ○学生のロボコン、デザコン、CADコン、パテコンや各種学協会や地域団体などの主催するコンテストへ積極的な応募を推進する。高専祭などに共催される地域ロボコンについても積極的な開催を推進する。 ○引き続き、学生のプロコン、パソコン甲子園、情報オリンピックへの参加を推進・促進する。 ○学生のデザコン・建築甲子園などの競技設計への参加を奨励する。 ○4・5学年の創造演習をテーマ別に二学年合同授業にする。 			学生主事 ロボコン実行委員長 機械電気工学科主任 情報電子工学科主任 土木建築工学科主任
⑤ ボランティア活動や合宿研修などの体験活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○学生会を中心とした地域(平原地区)の清掃ボランティア活動に積極的に参加する。 ○ごみの分別の啓蒙活動、ごみリサイクルステーションの適正な運用、校内電力の省電力化啓蒙活動を学生会を中心に行う。 ○4月に1年生対象の新入生合宿研修、5月にIE2対象の合宿研修を実施する。 			学生主事
(3) 優れた教員の確保				
① 多様な背景を持つ教員の採用を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○採用に当たっては公募によることとし、教授及び准教授については本校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関における勤務経験を有し、又は1年以上海外で研究や経済協力に従事した経験を有するものが全体として60%を下回らないようにする。 ○採用後の国内外における各種研修を活用する。このため、平成27年度教員選考方針を策定し、教員組織の目標達成に努める。 ○教員の採用、昇任については、校長が基本方針を運営委員会に諮り、その方針に沿って実施する。 			校長
② 「高専・両技科大間教員交流制度」の活用について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の教育研究力を高め、学校全体の教育研究力の向上にむけ、高専・両技科大間教員交流制度を活用するため、平成28年度以降の進め方について検討する。 	○中期ビジョン③における「技術科学大学など他機関との連携協働、社会ニーズに対応した研究開発の活性化」に対応している。		校長
③ 優れた教育能力を有する教員の採用を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位や技術士等の教育研究上の高度な資格を有し優れた教育研究業績を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を有し優れた教育研究業績を持つ者、また、民間企業等における経験を通して高度な実務能力を有し優れた研究業績を有する者を採用することを促進する。 ○上記の要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%を、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。 ○平成27年度教員選考方針を策定し、その方針に基づいて採用・昇任を実施する。 			校長

徳山高専平成27年度 年度計画	徳山高専平成27年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照	担当部署
④ 女性教員の積極的な採用・登用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○女性教員の採用を促進するため、女性の働きやすい職場環境の在り方について男女共同参画委員会で審議し、女性教職員の就業環境改善のための方策と実施について検討する。 ○新規教員採用の公募に際し、教育研究業績等の評価が同等の場合には女性教員の採用を優先する。 	○中期ビジョン①における「男女共同参画の環境整備」や「新規採用教員女性比率30%の達成」に対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.1.社会で育む少子化対策プロジェクト」に対応している。	校長
⑤ 教員の能力向上を目的とした教員研修(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の教育力向上のためのイベントを検討し実践する。 ○平成26年度のFD活動報告書を作成し、学校HPで公開する。 ○「年間職務の自己評価」結果等を精査し、平成27年度のFD活動方針を定め、全ての教員が参加できる教員研修を4回開催する。また、その効果の検証をアンケート等により行う。 ○近隣大学等が開催するティーチング・ポートフォリオ(TP)作成セミナーに参加し、本校におけるTPの作成件数を増やすとともに、それを学校HPで公開する。 ○教員のキャリアパス形成を補助するためのツールとしてe-ポートフォリオ(教員キャリアサポートプログラム)の導入を検討する。 			教務主事 総合企画室長
(4)教育の質の向上及び改善				
①モデルコアカリキュラムの導入、ICTを活用した教材や教育方法の開発を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○モデルコアカリキュラム導入WGでの検討を月1回程度行う。 ○企業技術者活用経費を、「モデルコアカリキュラムの実装」をテーマとしたプランで申請する。 ○平成26年度より設置したデジタル・リソースWGを中心として、整備が終了したICT教室の利活用方法の検討を開始する。 ○e-learning(WebClassやBlackboard等)普及のための環境整備および利用の拡大を図る。 ○アクティブ・ラーニング推進のためWebclassやBlackboardコンテンツの充実を推進する。 ○e-ポートフォリオ(教員キャリアサポートプログラム)導入を検討する。 			教務主事 総合企画室長
② JABEE認定プログラムの継続認定審査を受審し、教育の質の向上に努める。	○平成26年度に実施済み。平成26年度(2014年度)から6年の継続が認定された。			専攻科長
③ サマースクールや国内留学等の学生の交流活動を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○学生のサマースクールや国内留学等の高専の枠を超えた学生の交流活動を応援する。 ○中国地区高専執行長会議に学生を積極的に参加させる。 ○全国高専学生会交流会に参加希望があった場合には、積極的に参加させる。 			教務主事 学生主事
④ エンジニアリングデザイン教育やPBLの導入など、教育方法の改善を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ エンジニアリングデザイン教育、アクティブラーニング、PBLの導入を推進する仕組みを検討する。また、このための提案を盛り込んだ企業技術者活用経費への申請を行う。 ○数物教科のカリキュラムの再編、数物教育と専門教育の連携を目指し、数学および物理に関する科目間調整会議を開催する。また、専門教育において必要不可欠な数学、物理に関する基礎知識を精査し、専門科目と基礎科目のつながりを学生が認識できる方法を検討する。 ○モデルコアカリキュラムの到達目標達成のため、低学年の理数系科目(生物基礎)で平成26年度に開始したPBLの反省を生かし、実施スケジュールを変更して、その効果を検証する。 ○総合データベースのエンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の活用について検討する。 ○専攻科の実施例を参考にしながら、本科における創造系教育科目においても、ルーブリック評価の導入を検討する。 ○専攻科の総合演習をエンジニアリングデザイン教育のキャップストーン科目と位置づけ、教育方法の改善について検討する。 ○総合データベースのエンジニアリングデザイン教育等に係る取り組みの中から、事例集No.8を参考にして、環境建設工学総合演習のルーブリック評価を実施する。 	○中期ビジョン①における「PBLなどアクティブ・ラーニングの割合の増加」などに対応している。		教務主事 一般科目主任 機械電気工学科主任 情報電子工学科主任 土木建築工学科主任
⑤ 高等専門学校機関別認証評価受審への準備を計画的に進め、教育の質を保つために、指摘事項の改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○各年度で実施される自己評価、高等専門学校機関別認証評価、JABEE受審などの評価結果を公開する。 ○「養成する技術者像」や「学習教育到達目標」の周知度向上に取り組む。 ○指摘事項を改善するための取り組みを総合データベースで共有する。 			総合企画室長
⑥ 「インターンシップ」を実施し、企業と連携した「共同教育」を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○機械電気工学科2年生のインターンシップを行う。 ○全学科の4年生のインターンシップを行う。 ○専攻科1年生では長期(2ヶ月～3ヶ月の)インターンシップを行う。 ○テクノ・アカデミア会員企業を中心に県内企業の長期・短期インターンシップ受け入れを働きかける。 ○企業参加型キャリア教育(OB等による企業活動などの説明会)を通し、企業との共同教育を推進する。 	○中期ビジョン③における「社会ニーズに対応した研究開発の活性化」に対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.5.産業活力・富の創造プロジェクト」に対応している。	教務主事 テクノセンター長

徳山高専平成27年度 年度計画	徳山高専平成27年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照	担当部署
⑦ 企業技術者や外部の専門家と協働した教育を推進する。	○企業技術者活用経費で産学連携コーディネータの活用やモデルコアカリキュラムの実装をテーマとした申請を行う。 ○周南コンビナートの企業技術者を活用した工場見学を行う。 ○専攻科の講義(産業論)で企業技術者を活用する。 ○土木建築工学科5年生の技術者倫理で企業技術者(技術士)を活用する。 ○企業技術者(特に地元企業人材)活用の方策について検討する。	○中期ビジョン⑦における「社会連携の推進」などに対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.5.産業活力・富の創造プロジェクト」に対応している。	教務主事
				テクノセンター長
⑧ 長岡・豊橋両技術科学大学と連携し、教員の研修、教育課程の改善などを推進する。	○学生、教職員へ長岡、豊橋との連携に関連したイベントへの参加を促す。 ○長岡技術科学大学が主導する「システム安全サブエンジニア」プログラムへの参加を推進する。 ○ISTS2015やISATE2015に積極的な参加を推進する。	○中期ビジョン③における「技術科学大学など他機関との連携協働」に対応している。		教務主事
				総合企画室長
⑨ ICTを活用した教育を推進する。	○教室や学生談話室にモニターを設置するなどICT教育環境の整備を促進する。 ○教員にIoT活用教育の推進を促す。 ○平成26年度より設置したデジタル・リソースWGを中心として、整備が終了したICT教室の利活用方法の検討を開始する。 ○e-learning(WebClassやBlackboard等)普及のための環境整備および利用の拡大を図る。 ○アクティブ・ラーニング推進のためWebclassやBlackboardコンテンツの充実を図る。 ○教室無線Lanの教員への普及を啓発する ○セキュリティ教育を推進する ○Office365の学生への移行を勧める ○e-learningコンテンツの発掘 ○プログラミングコンテストを支援する	○中期ビジョン①における「PBLなどアクティブ・ラーニングの割合の増加」などに対応している。		教務主事
				総合企画室長
				情報処理センター長
⑩ 教育点検システムの評価を実施する。	○各部署は、今年度の活動方針、活動計画を明確にするとともに、前年度の活動状況等をとりまとめ、それぞれの部署における点検システムが機能しているか否かを評価し報告する。総合企画室(自己評価WG)では、各部署でとりまとめられた活動報告の内容を確認し、本校全体として教育点検システムが機能しているか否かを判断する。			総合企画室長
⑪ 年間職務の自己評価を実施する。	○定められた自己評価の実施方法に従い、教員は、前年度における年間職務の自己評価を行う。			総合企画室長
(5) 学生支援・生活支援等				
① 学生に対するメンタルヘルス・就学・生活に関する支援を推進する。	○全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究会への参加を支援する。 ○日本学生相談学会の研修会への参加を支援する。 ○日本学生支援機構の学生支援に関する研修への参加を支援する。 ○新入生アンケートを実施し、その結果の分析やそれに伴う相談を実施する。 ○2・3年生を対象にハイパーQ-Uテストを実施し、いじめ等が発生する兆候が無いかなど、クラスの雰囲気良好であるかを調査し、担任に対して専門カウンセラーが助言を行う。 ○全学生を対象に、こころと体の健康調査を年に2回(1年生の1回目はシグマ検査)を実施し、ケアが必要な学生を専門カウンセラーにつなぐなど担任と共に適切に対応する。 ○学習ルームを開設し、授業についてこれない学生が自信を取り戻せるようにTAを中心とした学び合いの場を提供する。 ○ピアカウンセラーを養成し、学習ルームなどのアクティビティに参加させ、学生が相談しやすい環境をつくる。			学生相談室長
② 学生寮、福利厚生センター、合宿研修施設などの実態を調査し、その結果を踏まえた整備計画の見直しを行い、整備を推進する。	○福利厚生センターや合宿研修施設の利用状況を把握し、修繕が必要な箇所の特定を行う。その結果を施設マネジメント委員会に報告する。 ○福利厚生施設、体育施設などについては安全面などの観点から積極的に点検を今後定期的に行い、今後10年の設備整備計画を作成し、同委員会へ提出する。	○中期ビジョン⑪における「男女共同参画の環境整備」に対応している。 ○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」に対応している。		学生主事
	○昨年度は学寮の居室をすべてチェックし、ブラインド、棚、アルミサッシ、机、椅子等の不備を把握し、ブラインドについてはほとんど修理が完了した。また、ごみ捨て場の屋根の修理も年度末に完了した。本年度は捕食室の壁の修理、食堂周辺の屋根の整備等を優先して、さらに寮生が快適に暮らせるような環境に向けて整備を整えてゆく。			寮務主事
③ 各種奨学金制度の積極的な活用を促進する。	○日本学生支援機構の応募を積極的に呼びかける。 ○企業の奨学金制度の通知があったら、積極的に紹介する。 ○年度末に返還制度の説明会を行い、奨学金を返還することの意義を分かってもらい、返還遅延がないようにさせる。		○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.5.産業活力・富の創造プロジェクト」に対応している。	学生主事
④ キャリア形成支援の充実を図り、高い就職率を維持する。	○「徳山高専女子百科Jr.」に本校を卒業し社会で活躍する女子学生の記事を取り込み、これを配布し、女子学生志願者の確保および女子学生のキャリア形成支援に取り組む。			総合企画室長

徳山高専平成27年度 年度計画	徳山高専平成27年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照	担当部署
	○本科1年生を対象に「進路と学びの意義」を意識させるプログラムを新設し、実施する。 ○キャリア学習履歴管理システム「きやりPi」の求人情報データベースを改良し、総合的な進路情報データベースとして活用することによって進路支援を充実させる。			キャリア教育支援室長
(6)教育施設の整備・活用				
①教育施設・設備について全学的な視点に立った施設マネジメントに基づいた整備計画の見直しを行う。	○施設整備要求の根拠として、施設の老朽状況状況をキャンパスの現状把握及び課題の抽出としてまとめ、省エネルギー計画を含む修繕年次計画の作成を行い、整備を計画する。			事務部
②施設の耐震化を計画的に推進する。	○非構造部材の耐震化として、屋内運動施設(第一体育館・武道場・第二体育館)の耐震改修を実施する。			事務部
③学生及び教職員に「実験実習安全必携」を配付し、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	○実験実習安全必携の配布 ○各授業で安全指導を徹底する			教育研究支援センター長
④男女共同参画に関する情報を適切に提供するとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進するための意識醸成等に努める。	○e-ポートフォリオ(教員キャリアサポートプログラム)導入を検討する。 ○機構本部が行う女性教職員に対する支援事業について、教職員に周知するとともに、該当女性教職員に対し、積極的に情報を提供する。 ○女性教職員からの意見を参考にしながら、男女共同参画推進委員会において、女性にとって働きやすい職場環境の改善を引き続き検討する。 ○男女共同参画相談窓口を学内に周知し、女性教職員が相談しやすい環境を整え、女性教職員の支援及び男女共同参画の推進を図る。	○中期ビジョン①における「男女共同参画の環境整備」や「新規採用教員女性比率30%の達成を目指す」に対応している。		総合企画室長 事務部
2 研究や社会連携に関する事項				
① 全国高専テクノフォーラムに参加し、研究成果を発信する。また、各高専での科学研究費助成事業等の外部資金獲得に関する好事例の活用を検討する。	○全国高専テクノフォーラム参加者への支援を行う。 ○機構が提供する外部資金に関するデータベースを活用し、外部資金への申請を促進する。 ○外部資金獲得状況を整理し、好事例との差異を調査する。	○中期ビジョン③における「取得特許の活用促進」や「外部資金の増加」に対応している。		テクノセンター長
② 研究成果について広く社会に公表する。また、テクノ・リフレクシュ教育センターや産学官連携コーディネーター等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。	○産学連携コーディネーターの指導の基、地域支援シーズ集を活用して企業と教員のマッチングを図る。 ○徳山高専テクノ・アカデミアで各種セミナーを開催し、産学官の連携を強化する。	○中期ビジョン③における「取得特許の活用促進」や「外部資金の増加」に対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.5.産業活力・富の創造プロジェクト」に対応している。	テクノセンター長
③ 研究成果の円滑な知的資産化及び活用に向けた取り組みを促進する。	○知的財産活用状況を把握し、研究成果の適正な知的資産化について検討する。	○中期ビジョン③における「取得特許の活用促進」や「外部資金の増加」に対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.5.産業活力・富の創造プロジェクト」に対応している。	テクノセンター長
④ 技術シーズを地域社会に広く情報発信する。	○研究シーズ、地域支援シーズ集の随時更新を行うとともに、企業等への説明の機会を増やす。 ○情報交換会などで共同研究成果などを展示発表する。	○中期ビジョン③における「取得特許の活用促進」や「外部資金の増加」に対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.5.産業活力・富の創造プロジェクト」に対応している。	テクノセンター長
⑤ 公開講座(理科教育支援を含む)を計画的に実施する。	○公開講座等で実施可能なコンテンツを調査・集約し、それらをリストアップしたパンフレットを作成して小中学校等へ配布する。 ○公開講座、ジュニア科学教室等を計画的に実施する。 ○公開講座、ジュニア科学教室に関してアンケート調査を行い、実施効果を講座担当者にフィードバックする。 ○周南ロボコンに係わるロボット製作教室等を小学校、公民館、本校において計画的に実施する。 ○サテライトを中心とする地域との交流を通して、教育、研究、課外活動等の活性化を図り、学校のPRにつなげる。 ○ぶちあごら(生物同好会)、いんぐりっしゅ☆る～む(英語に親しむ同好会)、英語多読教室(英語)、パソコン若葉教室(情報技術)、夏休み自由研究相談室、まちなかの小さな卒業研究発表会、公開講座、留学生のふるさと展などを実施する。	○中期ビジョン⑦における「社会連携の推進」に対応している。	○第2次周南市まちづくり総合計画(前期基本計画)(平成27～30年度)における「II.3.自立した地域づくりプロジェクト」に対応している。	総合企画室長 テクノセンター長 ロボコン実行委員長 サテライト委員長
3 国際交流等に関する事項				

徳山高専平成27年度 年度計画	徳山高専平成27年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照	担当部署
①海外の教育機関との交流活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ISTS2015およびISATE2015への積極的な参加を促進する。 ○香港VTC(中国)、シンガポールポリテクニク(シンガポール)、ワランゴン大学(オーストラリア)との学生交流を実施する。 ○教員1名を在外研究員制度を利用してドイツに、1名をシンガポールに派遣する。 ○FD活動の一環としてタイニチ工業大学(タイ)への教員の派遣を検討する。 ○他の高専で締結している海外の教育機関との学術交流協定に基づく具体的な交流活動を調査し、その活用を検討する。 ○海外の教育機関との相互交流を実施することにより、優れたグローバルエンジニアを養成するためのプログラムを再検討する。 ○ワランゴン大学(オーストラリア)、チェコ工科大学(チェコ)との学術協力協定締結及び継続のための手続きを行う。 ○国際協力機構(JICA)の協力も得つつ、東南アジア諸国における技術者高等教育の調査研究を実施し、高専教育システム導入の有効性について検討を行う。 ○平成25年度に開始した岩国米軍基地内 M.C.Perry High School との交流事業を再開する。 	○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」などの全体に対応している。		総合企画室長
②日本学生支援機構の奨学金制度等を積極的に活用し、語学研修、海外留学、海外インターンシップを実施する。	○学内補助金も用意して学生の語学研修を斡旋する。	○中期ビジョン⑤における「海外大学等との教職員・学生交流、教育・技術支援」などに対応している。		教務主事
	<ul style="list-style-type: none"> ○日本学生支援機構の支援金を活用し、香港VTC(中国)、グリフィス大学(オーストラリア)への学生派遣を実施する。 ○平成26年度に交渉したシンガポール・ポリテクニク(シンガポール)への学生派遣に関する具体的なスケジュールを検討し、これを実施する。 ○日本学生支援機構の留学支援金(平成28年度)を申請する。 			総合企画室長
	○ワランゴン大学において、専攻科生の中長期海外インターンシップを実施する。			専攻科長
③留学生の受入れに必要となる環境整備を推進する。	○留学生の受入拡大や快適な居住環境の確保のため、宿泊施設等の一部改装を検討する。	○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」に対応している。		総合企画室長
④留学生に対する研修等を企画し、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○5月に留学生の研修旅行を実施する。 ○地域の国際交流関係団体と連携して、留学生の研修を行う。 ○留学生のスピーチコンテストへの参加を支援する。 	○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」に対応している。		教務主事
4 管理運営に関する事項				
①教職員のコンプライアンスの向上及び健康管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○機構本部が示すコンプライアンス・マニュアルに基づき、教職員全員(非常勤職員を含む)がセルフチェックを実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ○「公的研究費不正防止計画」に基づき、以下の取組を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員にコンプライアンス教育を実施し、受講管理と理解度のチェックを行う。 ・教職員に、公的研究費の不正防止に関する説明会への出席を義務付ける。 ・教職員に公的研究費に関する誓約書の提出を義務付け、公的研究費が税金などを原資としていたことの意識啓発を行う。 ○諸規則の制定・改正については、遅滞なく教職員に周知し、その内容について解説するなど、教職員の理解度の向上を図る。 ○会計担当職員のスキルアップのため、機構本部主催の研修会に参加させる。 ○労働安全衛生法に基づく定期健康診断等について周知を徹底し、受診率の向上を図る。 ○メンタルヘルスに関する研修会を実施する。 			事務部
②公的研究費等に関する不正使用の再発防止策を確実に実施し、不適正経理の防止に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の取り組みを以下のとおり実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「公的研究費使用マニュアル(徳山高専版)」の見直しを行う。 ・抽出した取引業者の債権債務の突合を実施する。 ・取引業者に誓約書の提出を依頼する。 			事務部
③事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ○技術職員の能力の向上のため、中国地区高等専門学校技術職員研修等を活用し、必要な研修を計画的に実施するとともに、公的機関が認証する技術的な資格を積極的に取得させる。 ○事務職員の能力向上のため、機構本部主催の研修会に参加させるとともに、文部科学省、人事院及び大学等の他機関が開催する研修にも参加させる。 ○事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を実施する。 			事務部
④事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○事務職員について、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。 ○技術職員について、国立大学や高専間などの人事交流について引き続き検討する。 	○中期ビジョン⑩における「教職員人事が柔軟にすめられるような体制づくり」に対応している。		事務部
⑤情報セキュリティ対策の見直しを進め、教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○トップセミナーを推奨する。 ○セキュリティーe-learningの受講を推進する。 ○各学年へのセキュリティー教育を実施する。 			情報処理センター長

徳山高専平成27年度 年度計画	徳山高専平成27年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照	担当部署
⑥機構の中期計画および年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。また、各学科の特性に応じた具体的な成果指標を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、平成26年度に制定した本校の第3期中期計画に基づき年度計画を定める。 ○本校の特性に応じた具体的な成果指標を検討する。 ○平成26年度に引き続き、一般科目に応じた具体的な成果指標を検討する。 ○新しいメカトロニクス技術動向を踏まえた授業内容・環境の点検・見直しを行う。 ○優秀で適性の高い入学志願者確保のために、学科紹介の内容や広報活動について検討する。 ○各種資格取得への支援を行う。ToBeエンジニア試験など新規試験導入についても検討する。 ○学科の特性に応じた具体的な成果指標について検討する。 ○インターンシップ制度の積極的推進により、報告発表会などを通じて生産技術情報の共有をはかる。 ○基本情報技術者試験合格への支援を行う。 ○電気工事担任者資格取得への支援を行う。 ○学科の特性に応じた具体的な成果指標について検討する。 ○最新の情報・電子・通信技術動向を踏まえた授業内容・環境の点検・見直しを行う。特に、前年度の開発型電算機室のPC50台およびサーバ更新費用の本学への返済が残っており、この早期解決について検討する。 ○新しい土木・建築技術動向を踏まえた授業内容・環境の点検・見直しを継続して行う。 ○優秀な入学者確保のための学科紹介ポスターの作成と山口県下全中学校への配布を行い、希望者に対する学科説明会を実施する。 ○二級建築士試験・宅地建物取引士の受験指導を日建学院の協力を得て実施する。 ○学科の特性に応じた具体的な成果指標について検討を続ける。 			<p>総合企画室長</p> <p>一般科目主任</p> <p>機械電気工学科主任</p> <p>情報電子工学科主任</p> <p>土木建築工学科主任</p>
⑦「防災マニュアル」等に基づき危機管理へ対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ○地震等災害発生時には、「防災マニュアル」(平成23年3月制定)に基づき危機管理へ対応する。 ○事故や急病の発生時には、リスク管理室で定めた手順に従い、これに対応する。 ○災害及び事件事故発生時の情報連絡体制を教職員に周知し、再確認する。 			<p>事務部</p>
⑧学内の監査体制を強化し、高専相互会計内部監査の指摘事項への対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○「公的研究費に関する内部監査マニュアル」に基づき監査を実施する。 ○取引業者の売掛金台帳(写)の提出を求め照合表を作成し、本校会計伝票との突合を行う。 ○物品検査を実施し、適切な物品管理を周知する。 			<p>事務部</p>
⑨資産の有効活用方策を検討し、徹底したIT資産の管理を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ○施設マネジメント委員会において不動産資産の有効活用方策について検討する。 ○平成29年3月31日までに廃止することが決定した教職員宿舎について、土地建物の処分について検討する。 ○IT資産をこれまでと同様、徹底して管理する。 			<p>事務部</p>
II 業務運営の効率化に関する事項				
①一般管理費の見直しを実施し、削減に取り組むとともに、契約は原則として一般競争契約とし、随意契約の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○一般管理費について、光熱水費の削減を全教職員に促し、また業務の見直しにより、更なるコストの削減を図る。 ○契約は、原則として一般競争契約とし、企画競争や公募を行う場合は競争性、透明性の確保を図る。 ○光熱水費や電信電話、通信運搬等、慣例的に随意契約を行っている契約についても見直しを行い、競争契約の実施について検討する。 ○スキャナや電子メール、ファイル共有、webの活用を促し、印刷物の削減と業務の効率化を図る。 ○県内3高専で共同調達に向けた検討を行う。 			<p>事務部</p>
III 予算				
収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現				
①共同研究、受託研究、寄附金、科学研究費助成事業などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○共同研究、受託研究、奨学寄付金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増大を図るため、外部資金獲得のための情報収集を積極的に行い、教員へ応募を依頼する。科学研究費補助金等の応募においては希望者には申請書校閲を実施し、資金獲得に向けた援助を行う。 ○研究推進室及びテクノ・リフレッシュ教育センターの連携のもと、外部資金(共同研究、受託研究、奨学寄付金、科学研究費助成事業等)の獲得に積極的に取り組む。 ○具体的な取り組みとして、研究費の「獲得成果と研究成果」、「獲得計画と研究計画」、「獲得状況と研究進展状況」について、教員ごとのデータベース化を実施し活用することで、外部資金の呼び込みを支援する。 ○産学官連携コーディネーターを活用し、民間企業等との共同研究の推進を図る。 	○中期ビジョン③における「外部資金の増加」に対応している。		<p>総合企画室長</p> <p>事務部</p>
IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項				
1 施設及び設備に関する計画				

徳山高専平成27年度 年度計画	徳山高専平成27年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照	担当部署
①施設・設備についての実態調査や施設管理に係るコスト等の調査を実施し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づいた整備計画の見直しを行い、老朽施設設備の改善を計画的に推進する。	○施設整備要求の根拠として、施設の老朽狭隘状況をキャンパスの現状把握及び課題の抽出としてまとめ、省エネルギー計画を含む修繕年次計画の作成を行い、整備を計画し、概算要求、営繕要求を行う。			事務部
2 人事に関する計画				
①教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。	○国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。 ○教職員を対象とした機構本部が実施する階層別、業務別の各種研修会に積極的に参加させる。			事務部